

福島汚染水放流阻止のためのYWCA 声明

日本政府は早ければ4月末に、福島汚染水を太平洋に放流すると発表した。汚染水放流を決定し、日本政府が国際的な同意を得ようとしている中、12年ぶりに開かれた日韓首脳会談では、日本政府の要求を積極的に受け入れ、放射能汚染水の放流まで黙認した。大統領府は、首脳会談の交渉内容は公開しないまま、福島の水産物の輸入規制を維持するという言葉だけを繰り返している。国民の安全と生命のために責務を果たすべき政府が傍観し続ける中、汚染水放流の 때가目の前までやってきた。このまま行けば、放射能汚染水の被害は、福島原発を運営してきた日本政府や東京電力ではない第三者、韓国をはじめとする全世界の海洋生態系とそれに頼って生きていく世界中の人が背負わなければならない。

日本政府は多核種除去施設(アルプス)にかければ安全だというが、アルプスはトリチウムをはじめ、人体に致命的な核種を乗り除くことはできない。また、日本政府が代案として編み出した「希釈」は、放射性物質の絶対量を減らすことができない。なんと64種の放射性物質が含まれている汚染水は、2023年2月基準で133万トンだ。1,066個の貯蔵タンクに分かれている汚染水の安定性の検証も信じることはできない。日本は貯蔵タンクのいずれにも、64種の放射性物質すべてに対する検査はせず、たった7つの核種にのみ集中して検査し、これさえも底に沈んでいる高レベルの汚泥廃棄物を混ぜずに30リットルだけを採取して実施した。この検査データには、科学的に説明できない数値があるが、東京電力は自分でもわからないという回答だけを出しており、国際原子力機関(IAEA)と手を取り、安全だという立場のみ固守している。

このように福島汚染水が安全であるという科学的、客観的証拠がないにもかかわらず、韓国政府はこれを傍観しており、むしろ日本政府に妥協的な態度を見せている。汚染水放流は、理解と妥協の領域ではなく、国際的な放射能テロだ。今回の放流が決定すれば、私たちの海は放射能の危険にさらされ、福島産水産物の輸入規制も弱くなるだろう。

韓国政府は、日本政府ではなく、汚染水の最前線にいる当事者の声を聞く時だ。海と肌を触れ合いながら生きていく人々、水産物を流通し供給して生業を営む人々、精魂込めて作ったご飯を分かち合う人々、すべての国民が福島汚染水放流の最前線にいる当事者である。

過去100年の間、正義、平和、生命の歩みを進めてきたYWCAは、福島原発事故以後、早くから原発と放射能の危険を認識し、そこから身を守るための行動を続けてきた。命を生かす女性として集まった私たちは、福島汚染水から私たちの海と食べ物の安全を守るために最後まで行動するだろう。

- －日本政府は福島汚染水の放流計画を即座に撤回せよ！
- －韓国政府は日本政府ではなく市民の声に答えろ！
- －韓国政府は福島汚染水投棄を積極的に阻止せよ！
- －韓国政府は国民の生存権と海洋生態系の安全を守れ！

韓国YWCA連合会

2023年4月6日